

# 日本化粧品技術者会誌投稿規定

## 1. 投稿資格

投稿は本会会員を原則とする。会員以外の投稿は学術委員会編集小委員会が承認したものに限る。

## 2. 著作権

本誌に投稿された記事についての著作権は日本化粧品技術者会に帰属する。

## 3. 投稿原稿

- 3.1 原稿は原著、短報、総説および資料とし、未発表のものに限る。
- 3.2 原稿は、和文または英文とする。
- 3.3 原稿は本投稿規定および投稿の手引きに従って書き、「日本化粧品技術者会誌」編集部あてに要旨、本文、図、表および写真とともにメール送信または郵送する（郵送の場合、論文1部、原稿データ CD-R 1部）。和文投稿では、はじめに英文要旨を添付し、続いて英文要旨に準じた和文要旨を添付すること。キーワードは、英文タイトル、英文要旨から10語以上を抽出して重要なものから順番に英文要旨の末尾に記載する。
- 3.4 原稿の表紙に投稿の種類、題名、著者名、所属を記載する。
- 3.5 原稿はMSワードを使用し、白色無地のA4判縦用紙1枚に36行程度で記載する。和文投稿（短報）は、投稿用テンプレートを使用して作成する。和文投稿（原著、資料、総説）および英文投稿は、それぞれ投稿用テンプレート（原著用は総説兼用）、英文投稿用テンプレート（全兼用）を用いてもよい。
- 3.6 投稿原稿が本会に到着した日を受付日とし、掲載が決定した日を採用日とする。

## 4. 原 著

化粧品科学および化粧品産業の発展に貢献する技術、ならびに技術上関連ある独創的な研究で価値ある結論あるいは事実を含むものであること。

- 4.1 要旨は目的、方法、結果について論文の内容がわかるように、英文200～300語に要約する。和文投稿では、英文要旨にそって和文要旨を500字以内にまとめる。
- 4.2 論文は次の順序に書くことが望ましい。
  1. 緒言、2. 実験、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 引用文献

## 5. 短 報

断片的な研究であっても、化粧品科学およびその技術上関連ある独創的な研究、手法の改良など価値ある結論、あるいは事実を含むものは短報として投稿できる。

- 5.1 要旨は、英文200～300語にまとめ、和文投稿では和文要旨も英文要旨にそって400字以内に要約する。
- 5.2 原稿は3.5に準じて図、表も含めて刷上り5ページ程

度を原則とする。

- 5.3 論文は次の順序に書くことが望ましい。

1. 緒言、2. 実験、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 引用文献

## 6. 総 説

化粧品科学およびその技術上関連ある研究で、学術的あるいは技術的知識の発展を体系化したものは総説として投稿できる。

## 7. 資 料

化粧品科学およびその技術上関連ある研究で新しい事実あるいは価値あるデータ、調査研究、試験研究により有意義なデータを含むもので実験の結果報告の意味合いが強いものを資料として投稿できる。

## 8. 原稿の審査・再提出

- 8.1 動物を用いた実験から得られたデータを含むものは審査を行わずに著者に返却する。また、ヒトを被験者とした実験は実験内容を十分理解し被験者が志願したものである旨の記載を行うことを要する。
- 8.2 本会で受け付けた原著、短報、総説および資料の採否は編集小委員会が決定し、学術委員会へ報告する。原著、短報、資料については、学術委員による査読審査を経て編集小委員会に掲載採否を決定する。編集小委員会は投稿原稿について修正を求めることがある。
- 8.3 修正を求められた原稿は原則として2週間以内に再提出すること。

## 9. 著者校正

著者校正を1回行う。この際には印刷上の誤り以外の字句の修正などは原則として認めない。返却期限が著しく遅れた場合は編集小委員会の校正をもって校了とすることがある。

## 10. カラー印刷

著者が写真部分などをカラー印刷することを希望した場合は、編集小委員会がその妥当性を判断する。論文を理解する上で、カラー印刷が必須と編集小委員会が認めた場合は、その費用は日本化粧品技術者会が負担する。それ以外の場合は、筆者の負担とする。

## 11. 別 刷

別刷は表紙付きのpdf版を無料で提供し、印刷物を希望する場合は著者の実費負担とする。印刷物の申し込みは著者校正返却時に編集部あてに行う。

## 12. 原稿の提出

原稿は下記宛にメール送信または郵送するものとする。

### ●メールの場合

学会誌発行センター内「日本化粧品技術者会誌」編集部

e-mail : sccj-edit@capj.or.jp

送信データ：原稿は Word, 図表の画像データは JPEG  
または Excel (送信データにはパスワードをつけること)

### ●郵送の場合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16

学会誌発行センター内

「日本化粧品技術者会誌」編集部

郵送内容：出力した原稿

原稿データ (原稿は Word, 図表の画像データは JPEG または Excel で, CD-R に保存)

(2019年1月 改定)

日本化粧品技術者会誌投稿規定を読んでから投稿してください。

## 1. 原稿の書き方

最近の日本化粧品技術者会誌の体裁にならい、同類の原著、短報、総説および資料を参考にして書いてください。

和文原著、和文資料および和文総説は、化粧品技術者会のホームページから投稿用テンプレートを利用できます(総説は原著用を使用可)。和文短報は投稿用テンプレートを使い作成してください。英文投稿でも、英文投稿用テンプレート(全兼用)を各論文で利用できます。投稿用テンプレートを使用しないで原著、短報(英文)、資料、総説を作成する場合はMSワードで下記の要領で作成してください。

1.1 原著、短報(英文)、総説および資料は次の順序で作成してください。

英文表紙(投稿の種類、題名、著者名、所属)、英文要旨、キーワード、和文表紙(和文投稿の場合のみ、内容は英文表紙に準じる)、和文要旨(和文投稿の場合のみ)、本文、引用文献、図、表

1.2 本文の形式はなるべく次の項目の順に書いてください。

1. 緒言、2. 実験、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 引用文献

1.3 文章は簡潔に書いてください。和文投稿では、和文以外の人名、地名、会社名などは原則として欧文で書いてください。

1.4 表紙は次の項目を順に書いてください。

(1) 原著、短報、総説および資料の区別を1行目に書いてください。

(2) 題名などは2行目中央に書いてください。

なお、副題がある場合は改めてその下に書いてください。

(3) 著者名は題名などから1行あけて書いてください。

著者連名で各著者の所属が異なるときは、\*、\*\*印で区別してください。

(4) その次の行に研究者の所属(社名、所属名)を書いてください。所属が異なる場合はその肩に、\*、\*\*印で区別してください。

(5) 行を改めて郵便番号と所在地を書いてください。

著者の所属が異なる場合は、\*、\*\*印で区別してください。

1.5 原稿の区分は、ポイントシステムを使用し、大見出し、中見出し、小見出しをそれぞれ、1., 1.1., 1.1.1., のように書いてください。

1.6 行を改めるときは適宜、文字をあけてください。

1.7 数字はアラビア数字を用いてください。

1.8 文章中の語句に注をつける場合は、その右肩に注の記号をつけ、注の記号は通し番号としてください。注

はその小節が終わったところで行を改め、注として、1字あけて書きはじめてください。

1.9 繰り返し用いる名称は略号で示すことができます。略号は初出時に( )内に示し、以下その略号を用いてください。定義しないで用いることのできる略号は以下のようなものです。UV, UVA, UVB, GLC, GC-MS, HPLC, TLC, ODS カラム, IR, ATP, m-RNA など。

## 2. 化合物など

2.1 文章中の物質名称や機器名称は、トレード名称を使用せず、化学名称(原則としてIUPACに準ずる)または一般名称を記載するように努めてください(実験方法の説明に際しては、事実のみをお示しください)。

2.2 本文中では、化合物は化学式でなく、化合物名で書いてください。

2.3 化合物を省略記号で表す場合は、本文の最初に出てくるところで正式名称と省略記号を書いてください。

## 3. 単位、記号、数式など

3.1 記号、符号は国際的に使用されているものを用いてください。

3.2 単位は原則として国際単位(SI)を用いてください。

3.3 数式は原則として $\frac{a}{b} \cdot \frac{a+b}{c+d}$ のように書いてください。ただし、本文中に出てくる場合はa/b, (a+b)/(c+d)のように1行に書いてください。

## 4. 図、表の書き方

4.1 図、表、写真はカラー印刷、モノクロ印刷のいずれとするかを決めて、テンプレートに貼り付けてください。審査終了後での変更はできません。

4.2 図、表およびその題目、説明は英文で書き、本文とは別に作ってください。図は下にFig-1、表は上にTable-1と書いてください。一つの結果は表、もしくは図で示し、ダブリを避けてください。

4.3 図、表の原本は本文の後に添付してください。

4.4 図はA4判の白無地の用紙に実際に掲載される大きさの2ないし3倍に鮮明に書いてください。図の掲載時の大きさは約1/2(面積として約1/4)に縮小されますので線や点などの大きさにご注意ください。

4.5 写真は裏面にFig-No.と天地を明示して提出してください。

## 5. 引用文献

5.1 引用文献は該当する場所の右肩に<sup>1)~3)</sup>のように通し番号をいれ、本文の最後にまとめて記載してください。

5.2 引用文献の略称は、最近の科学技術文献速報または

Chemical Abstracts などの抄録・索引データベースの略称に準じてください。

- 5.3 引用文献は著者名, 文献名, 巻, ページ (年) の順序で書いてください。著者名は, 欧文の場合は姓に名をイニシャルで付けてください。複数著者の場合は全員を列記してください。
- 5.4 和文投稿では, 原則として和文文献であれば著者名, 文献名ともに和名で, 英文文献であれば英名と統一してください。
- 5.5 著者の未印刷の研究を引用するときは〔投稿中〕としてください。

〔雑誌〕

樋口美雪, 北原清志, 清水佳代子, 平井克彦, 松本俊, 高橋元次, 粧技誌, 50, 321-328 (2016)

J. P. Ebanks, A. Koshoffer, R. R. Wickett, S. Schwemberger, G. Babcock, T. Hakozaki, R. E. Boissy, J. Invest. Dermatol., 131, 1226-1233 (2011)

〔特許〕

特開平 04-230308

U. S. P. 2, 345, 645 (1990)

〔単行本など〕

クラレンス・R・ロビンス, 毛髪の科学, フレグランスジャーナル社, 2006, p. 445-543

岡田 明, 製品設計, (一社)人間生活工学研究センター 編, ワークショップ人間生活工学 第2巻, 丸善, 2005, p. 123-165

太田聖子, 新村貴子, 東 竜太, 鈴木留佳, 亀山浩一, 第75回 SCCJ 研究討論会要旨集, 8-9, 2014

M. Liebsch, D. Traue, C. Barrabas, H. Spielmann, F. Gerberik, L. Cruse, W. Diembeck, U. Pfannenbecker, J. Spieker, H. G. Holzhütter, P. Brantom, P. Aspin, J. Southee, Prevalidation of the EpiDerm Phototoxicity Test, ed. by D. Clark, S. Lisansky, R. Macmillan, CPL Press, Newbury, 1999, p. 160-166

ISO 25178-2 : 2012

〔web〕

小山弓具, 弓道コラム. <http://www.koyama-kyugu.com/archive/c017.php> (2016.7.25 参照)

EYJAFJALLAJÖKULL VOLCANO ASH (160 GR.). <http://nammi.is/islandische-vulkanasche-aus-dem-eyjafjallajokull-160-gr.html> (accessed 2017.4.3)

(2019年1月 改定)

#### 【掲載論文の公開と表彰について】

- 1) 掲載された論文の和英要旨は, 科学技術振興機構の論文公開システム J-stage にて, 弊会ホームページ掲載と同時に公開されますが, 本文は2年後の公開となります。
- 2) 掲載された原著に関しましては, 2年に1回, 優秀論文賞の審議を行います。また同時に, 短報に関しましては奨励賞該当有無の審議を行います。審議を経て選考された論文の著者へは, 総会にて賞状と記念品が授与されます。